

具体的な目標値の設定について

考え方

- 1 「目指す姿」と「具体的な目標値」の対応関係を明確にする
- 2 目標値に関する調査項目設定の考え方は国の「第3次食育推進基本計画」を参考にすが、数値目標は福岡市の現状に合わせる
- 3 数値目標は、過去のデータの推移や世代ごとの差、目標の達成難度を勘案しながら設定する
- 4 数値化が馴染まない項目については、実践状況の確認をするなどし、目標値は設定しない
- 5 第3次計画に引き継がなかった第2次計画の成果指標については、定期的に現状把握を行う

目指す姿	食育に関心を持っている		
具体的な目標値	食育に関心を持っている市民の割合		
目標設定の必要性	<p>・食育を市民運動として推進し、成果をあげるためには、市民一人一人が自ら実践を心がけることが必要であり、そのためには、まず多くの市民に食育に関心を持ってもらうことが欠かせない。</p> <p>・また、内閣府の調査によると、食育に関心を持っている国民は、関心を持っていない国民よりも朝食を食べる頻度やバランスの良い食事の頻度が高い傾向にある。</p> <p>・国において目標を達成しておらず、福岡市においても減少傾向にあるため、国と同様に、食育に関心を持っている市民の割合を増加を目標とする必要がある。</p>		
データソース	市政アンケート調査		
調査項目	食育に関する資料を示し、食育という言葉やその意味を知っていて、食育について「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と回答した人を該当者として集計		
現状値	77.9%(平成27年度)	目標値	90%以上(平成32年度)
目標設定の考え方	市の現状値は国の現状値(75.0%)より若干高いが、目標値は国と同様に90%以上とする。		

目指す姿	充実した朝食を毎日食べている						
具体的な目標値	朝食を欠食する小学生・中学生の割合						
目標設定の必要性	<p>・学齢期は、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性をはぐくんでいくための基礎を培う時期であり、朝食を毎日食べることは、健康的な生活リズムや生活習慣の確立につながり、非常に重要である。</p>						
データソース	小・中学生朝食調査						
調査項目	<p>・朝食に関して、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ほとんど毎日食べる</td> <td style="width: 50%;">2 週に4～5日食べる</td> </tr> <tr> <td>3 週に2～3日食べる</td> <td>4 ほとんど食べない</td> </tr> </table> <p>3(週に2～3日食べる)、4(ほとんど食べない)と回答した人を該当者として集計</p>			1 ほとんど毎日食べる	2 週に4～5日食べる	3 週に2～3日食べる	4 ほとんど食べない
1 ほとんど毎日食べる	2 週に4～5日食べる						
3 週に2～3日食べる	4 ほとんど食べない						
現状値	小学生3.6%(平成27年度) 中学生5.6%(平成27年度)	目標値	小学生0%(平成32年度) 中学生0%(平成32年度)				
目標設定の考え方	<p>・2次計画までは「朝食を毎日食べる」人を増やすことを目標にしてきたが、「休日などは朝食と昼食が一緒になるなど、毎日100%達成は現実的ではない」といった意見が出ていた。</p> <p>・健康的な生活リズムや生活習慣の確立といった食育の観点から特に問題が大きいと考えられる「週の大半、朝食を食べていない」小・中学生を減らすことを目標とする。</p>						

具体的な目標値	朝食を欠食する若い世代(20～30歳代)の割合		
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べることは、健康的な生活リズムや生活習慣の確立につながり、非常に重要である。 ・1次計画より「朝食を毎日食べる」を指標とし、健康日本21福岡市計画などでも一体的に取り組みを行ってきたが、改善はされなかった。 ・特に若い世代では、他の世代に比べて、朝食を摂取する割合が依然として低く、今後も引き続き取組を推進する必要がある。 		
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)、市政アンケート		
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食に関しては「定義が曖昧である」といった意見があったため、下記の通り定義し調査を行った。(定義は国と同様) 「朝食を食べる」とは、エネルギー源となる食べ物、飲み物を飲食した場合のことをいい、砂糖・ミルクを加えないお茶類、水及び錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラルしかとらない場合は、「朝食を食べたとは言わない」と定義し、下記から1つ選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 1 ほとんど毎日食べる 2 週に4～5日食べる 3 週に2～3日食べる 4 ほとんど食べない 3(週に2～3日食べる)、4(ほとんど食べない)と回答した人を該当者として計上 		
現状値	27.5%(平成27年度)	目標値	18%以下(平成32年度)
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・2次計画までは「朝食を毎日食べる」人を増やすことを目標にしてきたが、改善が見られなかったことについては、「休日などは朝食と昼食が一緒になるなど、毎日は難しいのでは」といった意見が出ていた。 ・最終的には多くの市民が「充実した朝食を毎日食べている」ことが目標だが、その段階として「朝食を食べていない人が食べるようになる」「食べている人は内容が充実する」「毎日食べるようになる」といったものが考えられる。 ・3次計画では「朝食を毎日食べる人を増やす」ことではなく、「朝食を食べていない人が食べるようになる」ことを目指す。 ・従来行ってきた市政アンケートでの朝食摂取状況調査では、朝食の定義はしていなかったが、過去5年間(23～27年度)の中で、欠食率が最も低かった23年度(18.3%)を下回ることを目標とする。 		

目指す姿	バランスのよい食事をとっている													
具体的な目標値	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合													
目標設定の必要性	・生涯にわたって健全な心身を培い、食を通じた健康づくりをすすめるためには、市民一人一人が栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要である。													
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)													
調査項目	<p>主食・主菜・副菜について説明をし、「主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べるのが1日に2回以上あるのは、週に何日あるかを聞く。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ほぼ毎日</td> <td>2 週に4～5日</td> </tr> <tr> <td>3 週に2～3日</td> <td>4 ほとんどない</td> </tr> </table> <p>1(ほぼ毎日)と回答した人を該当者として集計</p>				1 ほぼ毎日	2 週に4～5日	3 週に2～3日	4 ほとんどない						
1 ほぼ毎日	2 週に4～5日													
3 週に2～3日	4 ほとんどない													
現状値	43.9%(平成27年度)	目標値	55%以上(平成32年度)											
目標設定の考え方	<p>・市2次計画では「バランスのよい食事」については「野菜を毎食食べること」「食事バランスガイド等健全な食生活の実践のための指針の参考状況」をもとに評価してきた。</p> <p>・しかし、指針等の参考状況は、指針等に関する内容の理解度や参考の程度により、実際の食生活の実践状況には違いが見受けられると言われている。</p> <p>・また、野菜を食べることだけでは、高齢者における課題の低栄養の予防にはつながらない。</p> <p>・平成27年9月に厚労省から示された「健康な食事」にもあるように、「主食・主菜・副菜を揃えること」は、個々の栄養素について目標量等を提示するより包括的で市民にとってわかりやすいため、これを目標として設定した。</p> <p>・上記調査項目において、2～4と回答した人の半数が、3つを揃えて食べる日数が(2日間程度)増えることを目指し、現在週に4～5日食べている人がほぼ毎日食べた場合の推定値を目標値とした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほぼ毎日</th> <th>週に4～5日</th> <th>週に2～3日</th> <th>ほとんどない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>43.9%</td> <td>20.6%</td> <td>21.1%</td> <td>13.7%</td> </tr> </tbody> </table>					ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんどない	27年度結果	43.9%	20.6%	21.1%	13.7%
	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんどない										
27年度結果	43.9%	20.6%	21.1%	13.7%										
具体的な目標値	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合(20～30歳代)													
目標設定の必要性	・生涯にわたって健全な心身を培い、食を通じた健康づくりをすすめるためには、市民一人一人が栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要である。													
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)													
調査項目	<p>主食・主菜・副菜について説明をし、「主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べるのが1日に2回以上あるのは、週に何日あるかを聞く。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ほぼ毎日</td> <td>2 週に4～5日</td> </tr> <tr> <td>3 週に2～3日</td> <td>4 ほとんどない</td> </tr> </table> <p>1(ほぼ毎日)と回答した人を該当者として集計</p>				1 ほぼ毎日	2 週に4～5日	3 週に2～3日	4 ほとんどない						
1 ほぼ毎日	2 週に4～5日													
3 週に2～3日	4 ほとんどない													
現状値	25.9%(平成27年度)	目標値	38%以上(平成32年度)											
目標設定の考え方	<p>・若い世代は他の世代と比べて栄養バランスに配慮した食事の摂取頻度が低く、改善の必要があることから、20～30歳代についての割合も目標として設定する。</p> <p>・上記と同様に、現在週に4～5日食べている人がほぼ毎日食べた場合の推定値を目標値とした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほぼ毎日</th> <th>週に4～5日</th> <th>週に2～3日</th> <th>ほとんどない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>25.9%</td> <td>22.5%</td> <td>30.1%</td> <td>21.2%</td> </tr> </tbody> </table>					ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんどない	27年度結果	25.9%	22.5%	30.1%	21.2%
	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんどない										
27年度結果	25.9%	22.5%	30.1%	21.2%										

具体的な目標値	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食生活に気をつけ、実践している市民の割合(30～40歳代)																						
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防や改善には、日常から望ましい食生活を意識し、実践することが重要である。 エネルギーや食塩などの過剰摂取に代表されるような栄養等の偏りや朝食欠食などの食習慣の乱れ、それに起因する肥満などは改善するに至っていないため、引き続き取組が求められる。 																						
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)																						
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ふだん生活習慣病予防や改善のために、次の事をどの程度実践しているかを聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ①食べすぎないようにしている ②塩分を取りすぎないようにしている ③脂肪分の量と質を調整している ④甘いものを取りすぎないようにしている ⑤野菜をたくさん食べるようにしている 実践度 1 いつもしている 2 時々している 3 あまりしていない 4 ほとんどしていない ①～⑤について3項目以上について1(いつもしている)2(時々している)と回答した人を該当者として集計																						
現状値	62.6%(平成27年度)	目標値	68%以上(平成32年度)																				
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防や改善のための食生活の実践状況は、世代が低いほど実践していない傾向にある。 食習慣は改善が難しいこともあるため、若いうちから望ましい食生活を意識することは、将来の生活習慣病予防のためにも必要である。 具体的な目標値については、全体の指標と同様に、30～40代の現状値に約5%増で設定した。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>53.1%</td> <td>54.7%</td> <td>56.7%</td> <td>68.3%</td> <td>79.6%</td> <td>80.9%</td> <td>80.1%</td> </tr> </tbody> </table>								10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	27年度結果	53.1%	54.7%	56.7%	68.3%	79.6%	80.9%	80.1%
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上																
27年度結果	53.1%	54.7%	56.7%	68.3%	79.6%	80.9%	80.1%																

目指す姿	食塩の取りすぎに気をつけ、実践している						
具体的な目標値	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食塩を取りすぎないように気をつけ、実践している市民の割合						
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防や改善には、日常から望ましい食生活を意識し、実践することが重要である。 特に食塩の過剰摂取は、高血圧、脳卒中、腎臓病、胃がん、骨粗鬆症などの疾患のリスクとなるため、減塩に対する取組は重要である。 						
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)						
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防や改善のために、塩分を取りすぎないようにどの程度実践しているかを聞く。 実践度 1 いつもしている 2 時々している 3 あまりしていない 4 ほとんどしていない 1(いつもしている)2(時々している)と回答した人を該当者として集計						
現状値	63.6%(平成27年度)	目標値	70%以上(平成32年度)				
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 塩分の過剰摂取については、食品表示法による食塩相当量の表示義務化や、減塩商品が増えてきたことなど、社会的関心も高まっているところであるため、目標値は生活習慣病の予防か改善のための実践状況全体の5%より多い約8%増とする。 						

目指す姿	よく噛んで食べている																		
具体的な目標値	よく噛んで食べる市民の割合																		
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が健やかで豊かな生活を送るには、口腔機能が十分に発達し、維持されることが重要である。 ・早食いと肥満の関係や、咀嚼力の低下と低栄養の関係など、食べ方と健康づくりは密接な関係があり、取組みが必要である。 																		
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)																		
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだんよく噛んで食べているかを聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 1 よく噛んでいる 2 どちらかといえばよく噛んでいる 3 どちらかといえばよく噛んでいない 4 よく噛んでいない <p>1(よく噛んでいる)2(どちらかといえばよく噛んでいる)と回答した人を該当者として集計</p>																		
現状値	48.3%(平成27年度)	目標値	54%以上(平成32年度)																
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・10～60歳代の半数がよく噛むようになり、70代以上が現状を維持した場合の推計値を目標値に設定した。 ・「ゆっくり食べる」ことについては、よく噛むことはゆっくり食べることに繋がるため、具体的目標には「よく噛むこと」だけを設定する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>37.5%</td> <td>49.6%</td> <td>41.2%</td> <td>40.5%</td> <td>43.2%</td> <td>46.3%</td> <td>65.1%</td> </tr> </tbody> </table>				10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	27年度結果	37.5%	49.6%	41.2%	40.5%	43.2%	46.3%	65.1%
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上												
27年度結果	37.5%	49.6%	41.2%	40.5%	43.2%	46.3%	65.1%												

目指す姿	食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している		
具体的な目標値	食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している市民の割合		
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全に関する情報は、市民の関心の高い情報の一つである。 ・健全な食生活の実現に向けては、食品の選び方や適切な保管方法などについての基礎的な知識を持つだけでなく、その知識を行動に反映させることが必要である。 		
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)		
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な食生活を送るためのポイントとして、次の項目をどの程度意識して実践しているのか確認する。 ①食品を買う時や食べる時に「消費期限」など容器包装に記載されている表示を確認すること ②食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ること ③生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合にはよく洗うこと ④生肉、生魚、卵をさわった後は、しっかり手を洗うこと ⑤料理は、長時間、室内で放置しないこと ⑥生の状態(生食用として販売されているものは除く)や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと ⑦食事の前に、しっかりと手を洗うこと <ul style="list-style-type: none"> 1 いつも実践している 2 時々実践している 3 あまり実践していない 4 ほとんど実践していない <p>①～⑦について4項目以上1(いつも実践している)2(時々実践している)と回答した人を該当者として集計</p>		
現状値	93.7%(平成27年度)	目標値	95%以上(平成32年度)
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの人が実践しているといえる95%を目標値に設定した。 ・世代間の差は特にないため、世代ごとの目標値は設定しない。 		

目指す姿	福岡産のものを積極的に利用している																														
具体的な目標値	市内産、県内産の農林水産物を買うようにしている市民の割合																														
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡は自然の豊かな恵みにより、農産物や魚介類、それらを活かした加工商品の生産地である。 ・身近な場所で生産される食べ物を知り、積極的に利用することは、農林漁業の活性化や食料自給率の向上、安易な食料廃棄の抑制につながる。 																														
データソース	市民の食育に関するアンケート調査(平成27年度)																														
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだん野菜や魚などの農水産物について、なるべく福岡市内産や福岡県内産のものを買うようにしているかを聞く。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">1 いつも買っている</td> <td style="text-align: center;">2 できるだけ買うようにしている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 あまり買わない</td> <td style="text-align: center;">4 買わない</td> </tr> </table> <p>1(いつも買っている)2(できるだけ買うようにしている)と回答した人を該当者として集計</p>							1 いつも買っている	2 できるだけ買うようにしている	3 あまり買わない	4 買わない																				
1 いつも買っている	2 できるだけ買うようにしている																														
3 あまり買わない	4 買わない																														
現状値	70.2%(平成27年度)		目標値		77%以上(平成32年度)																										
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の差が大きく、10～20歳代については実際に野菜や魚を買う機会が少ないことも影響していると思われる。 ・目標値の設定に参考となる他のデータなどが無いため、10～40歳代が5%程度改善、50代が60代並み、60代以降が現状維持した場合の推計値を目標値に設定した。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>46.9%</td> <td>46.0%</td> <td>55.5%</td> <td>67.1%</td> <td>72.8%</td> <td>80.3%</td> <td>83.0%</td> </tr> <tr> <td>5年後の目標</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>60%</td> <td>72%</td> <td>80%</td> <td>80%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table>								10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	27年度結果	46.9%	46.0%	55.5%	67.1%	72.8%	80.3%	83.0%	5年後の目標	50%	50%	60%	72%	80%	80%	83%
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上																								
27年度結果	46.9%	46.0%	55.5%	67.1%	72.8%	80.3%	83.0%																								
5年後の目標	50%	50%	60%	72%	80%	80%	83%																								
具体的な目標値	学校給食における市内産農水産物利用割合																														
目標設定の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食に市内産の農畜産物・水産物を活用することで、地産地消を進めるうえで児童・生徒や学校給食関係者が地元で生産される食材を知ることができ、生産者の努力や食に対する感謝の念をはぐくみ、食育につなげる上で重要である。 																														
データソース	市内産農畜産物学校給食活用協議会(事務局:農林水産局農業振興課)資料をもとに農林水産局で調査																														
調査項目	市内産農産物の学校給食の使用品目、使用率(重量ベース)、市内産加工品使用品数																														
現状値	米(重量ベース) 21.9%		目標値		米(重量ベース) 25.0%																										
	野菜(主要品目)(重量ベース) 31.1%				野菜(主要品目)(重量ベース) 33.0%																										
	農畜産加工品(品数) 4				農畜産加工品(品数) 7																										
	水産物(加工品含む)(品数) 1				水産物(加工品含む)(品数) 2																										
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次計画期間中の利用割合の著しい増加は見られない(特に野菜)が、第1次計画と比して数値は上がっており、関係者の地道な努力による。 ・本市の主な農産物であっても出荷時期が限られるため、年間を通した給食に使用されないものやむを得ない面がある。しかしながら、元来本市での生産に適さない、または取り組まれていない作物や、生産量が少ない作物を目標設定の母数に入れるのは、適当でないと考えられる。 ・市内の農地面積や農業従事者は減少傾向にあるものの、生産量は、特に市の主要な農産物は伸びており、今後はそれらの主要な農作物の生産を奨励すべきと考えている。 ・以上の点を踏まえ、農作物、特に野菜については、これまでどおり、全量を重量ベースで目標値を設定するのは適当でないため、品目を市内の主な生産物で学校給食に使用されているものに絞った上、重量ベースでの使用量を目標準値とする。 ・農畜産物を使用した加工品については、ここ数年学校給食に採用されており、今後も関係者で学校給食用の加工品の開発に取り組んでいる。また福岡市でも市内産の農畜産物の6次産業化の推進をおこなっており、今後学校給食用の取組みも視野に入れて取組みを行うため、5年度の32年度まで3品増加し7品とする。 ・水産物については、現状の中で供給可能な水産物を探っており、加工品の開発もおこなっており、今後も取組みを続けていくことから、5年度の32年度までの目標は1品増加し2品とする。 																														

目指す姿	環境に配慮した食生活を送っている		
具体的な目標値	食品ロスを軽減するために何らかの取り組みを行っている市民の割合		
目標設定の必要性	<p>・まだ食べられるのに廃棄されている食品ロスについては、国全体で年間642万トン（平成24年度推計）発生しているが、その削減を進めるためには、国民一人一人が食品ロスの現状やその削減の必要性についての認識を深め、自ら主体的に取り組むことが求められている。</p>		
データソース	市民の食育に関するアンケート調査（平成27年度）		
調査項目	<p>・「食品ロス」について説明した上で、「食品ロス」という問題を「よく知っている」「ある程度知っている」と回答し、「食品ロス」を軽減するために「取り組んでいることがない」「無回答」以外の回答をした人を該当者として集計する。</p> <p>「食品ロス」を軽減するために実践していること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小分け商品, 少量パック商品, バラ売りなど食べきれぬ量を購入する 2 冷凍保存を活用する 3 料理を作りすぎない 4 飲食店等で注文しすぎない 5 日頃から冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する 6 残さず食べる 7 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する 8 特になし 9 その他 		
現状値	62.4%（平成27年度）	目標値	80%以上（平成32年度）
目標設定の考え方	<p>・国の現状値（67.4%）と福岡市の現状値は5%程度違うが、国と同様に80%以上を目標値に設定した。</p>		

目指す姿	郷土料理や行事食を取り入れ、次の世代に伝えている																						
具体的な目標値	ふだんの食事に行事食や郷土料理を取り入れている市民の割合																						
目標設定の必要性	<p>・核家族化の進展や地域の繋がり希薄化などにより、「和食」をはじめとした日本の食文化の存在感と活力は、徐々に失われつつある。地域や家庭で受け継がれてきた行事食や郷土料理の継承は、全国的な課題である。</p>																						
データソース	市民の食育に関するアンケート調査（平成27年度）																						
調査項目	<p>・季節や地域の行事の時の行事食や福岡の郷土料理を作ったり食べたりしているかを聞く。（伝統的な行事と行事食について例を示す）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない <p>1（している）2（どちらかといえばしている）と回答した人を該当者として集計</p>																						
現状値	58.0%（平成27年度）	目標値	62%以上（平成32年度）																				
目標設定の考え方	<p>・世代による明確な傾向はなかったため、20～60代の方が70代以上の現状値に近くなることを目標に設定した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度結果</td> <td>78.0%</td> <td>51.1%</td> <td>55.5%</td> <td>53.6%</td> <td>61.6%</td> <td>57.9%</td> <td>61.6%</td> </tr> </tbody> </table>								10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	27年度結果	78.0%	51.1%	55.5%	53.6%	61.6%	57.9%	61.6%
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上																
27年度結果	78.0%	51.1%	55.5%	53.6%	61.6%	57.9%	61.6%																

具体的な目標値を設定しない「目指す姿」

目指す姿	家族や仲間と楽しく食事をしている
設定しない理由	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合を調査したところ、国の現状値及び指標を超えていたため、目標値には設定しない。参考値として同様の調査を行う。
目指す姿	食事の基本的マナーが身についている
設定しない理由	食事前後の挨拶や箸使いなど、食事の基本的マナーは日常生活の一部であり、具体的な数値の設定に馴染まないため、目標値には設定しない。関係団体等により実際どのような取組が行われているかについては把握を行う。